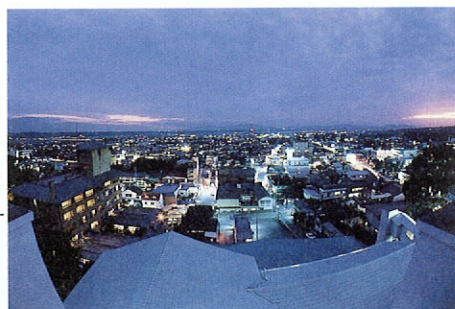


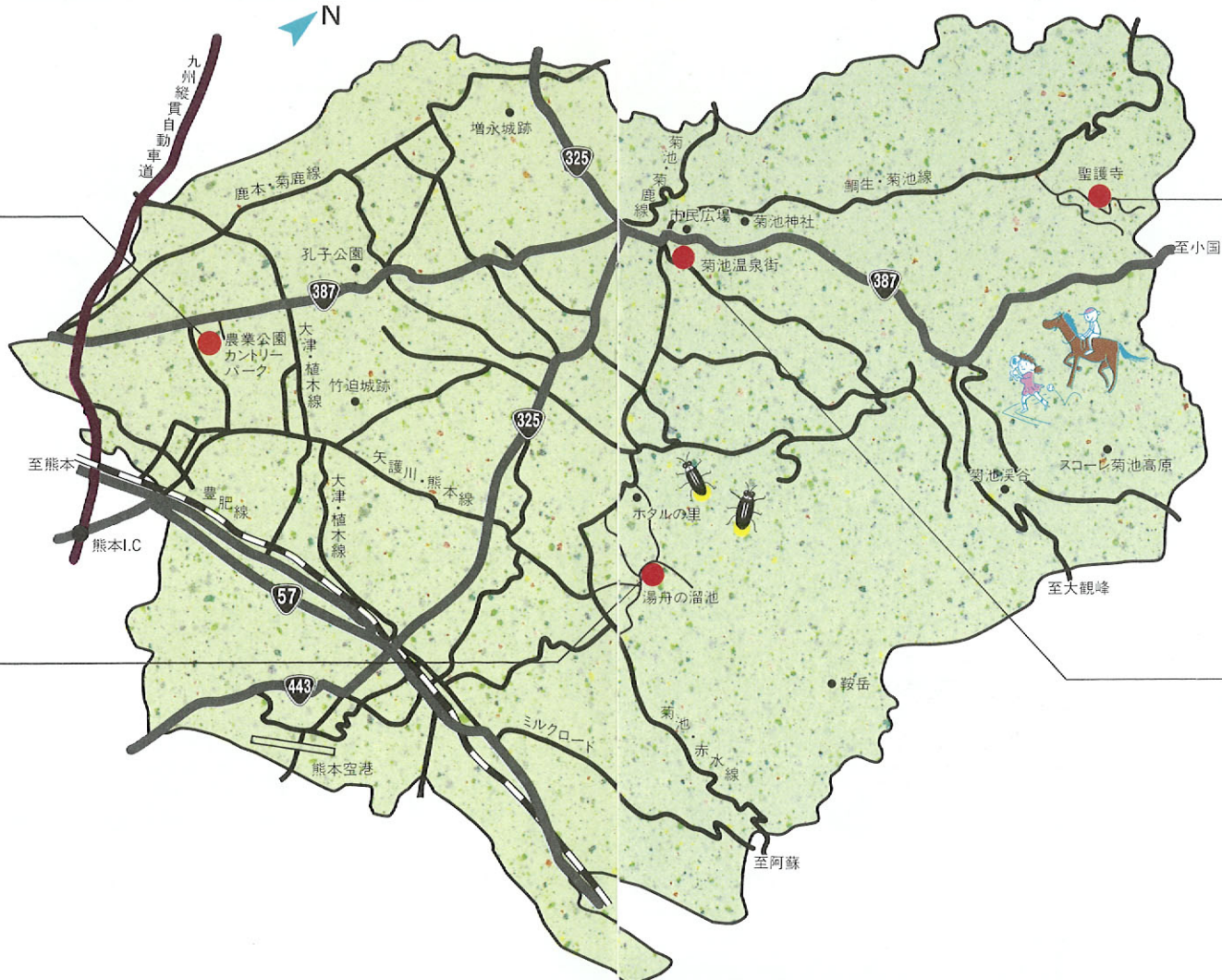
# 菊池



「聖護寺」  
宇土郡長崎(現不知火町)出身の大智禪師が建立した寺。大智禪師は菊池武時や武重をはじめ菊池一族の師として教導した。現在は外国からの修行僧も数名修行している。



「菊池温泉街」  
昭和29年に湧出した比較的新しい温泉。菊池公園山麓一帯に約30の源泉を持つ。豊富な湯量で無色透明、弱アルカリ性の柔らかい泉質は「乙女の柔肌」に例えられる。



「熊本県農業公園カントリーパーク」  
広大な敷地で農業を学ぶことができる。開9時30分～18時(12月～2月は9時30分～17時)。休火曜(祝日の場合は翌日)。大人300円(12月～2月は100円)。高校生以下は無料。☎096・246・7311



「鞍岳と湯舟の溜池」  
鞍岳は山頂が馬の鞍に似ていることからその名がついたもので、有明海・雲仙を一望できる。そのふもとの湯舟の溜池は、水面に映る大自然のパノラマをバックに「釣り」「ボート」「カヌー」が体験できる。

十八の城に守られて  
今も歴史の息づかいが聞こえる。  
緑の中へときめくロマンを探しにいこう。

歴史と清流の古里を訪ねて

青々と広がる田園の中、車を走らせる。菊池一族の歴史を今に伝える古城を訪ね、また、遠く中国まで思いを馳せる。渓谷から流れ出た水は城の濠となり、ホタルを育て、人々の生活を潤してきた。

### ▼「西郷どん」もビックリ

七城町西郷区。田園風景の中に、こもりとした木立ちが一際目立つ。その木立ちの中に「増永城跡」があった。苔むした五輪塔、井戸跡、土塁跡…。城跡を示す石碑がなければ、ここにつて城があったとは気付かない。



増永城跡

### ▼遥かなる中国へ 思いを馳せる

中国の思想家、孔子の出身地でもある山東省泗水県からその名をもらった泗水町。その孔子にちなんで造られた「孔子公園」。朱、緑、白、瑠璃色…。中国の宮廷を真似たという建築物の鮮やかな色が目を射る。これらの建物はすべて中国から来た匠の手によるもの。物産館、資料館などがあるが、一番目を引くのが公園のシンボル孔子像が立つ六角亭。泗水県の水が使われたというこの像、訪れた人を優しい目で見詰めていた。



孔子像が立つ六角亭(孔子公園)

### ▼城が、神社が、 巨木が見守る街

菊池公園の山麓。突き抜けるような青空をバックに菊池武光公騎馬像が立つ。ここが昨年三月に完成した「菊池市民広場」だ。白壁蔵造りの菊池市観光物産館には菊池の歴史が一目で分かる歴史資料館が併設され、観光物産品の展示、販売も行われている。隣のグランドでワイシャツの袖をまくりソ

別名、西郷城とも呼ばれるこの城は明治維新の偉人、西郷隆盛の先祖が建てたものだ。初代城主、西郷太郎政隆から実に三十二代目が隆盛にあたる。あの薩摩隼人、西郷どんの先祖が菊池出身だったとは驚きだ。  
菊池には、菊池氏が本城の菊池城を守るため築いた十八の支城、菊池十八外城が残る。増永城もその一つ。



竹迫城跡公園

次は戦場の一つとして「太平記」にも登場する竹迫城跡へ向かう。合志町の北部に広がる丘陵の一角にある城跡は整備され、「竹迫城跡公園」として開放されている。なだらかな丘を芝が覆い、竹植物園や東屋もある。学校帰りの中学生がキラキラ光る濠に石を投げ込む。水の輪が広がった。

フットボールをしている昼休み中のサラリーマン。打ち上げたボールが太陽にとけて見えなくなった。



菊池武光公騎馬像(菊池市民広場)

菊池神社へ続く御所通り。幹に鉄輪枝に鉄のつっかえ棒。それでも空へ向かって精一杯、枝葉を伸ばす桜の木と出会う。樹齢六百年以上。「將軍木」と呼ばれるこの桜は、征西將軍懷良親王の杖とも御手植木とも言われる。この木を將軍に見立て、毎年秋の菊池神社の大祭の際、道を隔てた能舞台で御松囃子御能が奉納される。木の裏側にはポツカリと大きな空洞が口を開けていた。痛々しいながらも凛と佇む姿に將軍のプライドを見たような気がした。  
歴史をたどる小旅行。菊池一族の歴史の旅でもあった。歴史と共に歩んできた街。過去から現在、そして未来へと続く街。それが菊池だ。